

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
210009	X-21-B-3-210009	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
担当教員				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	選択	1年
国際法	熊谷 卓			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

授業目的

地球という「惑星」にはおよそ 200 の主権国家が存在し、そこには 50 億人をこえる人々が日々の生活を送っている。国際法(International Law)というものは主としてこれらの国家関係を規律する法規範の総体をいう。今日の国際事象をみていると、国際社会において守られるべきルールとは何かあらためて問われているようにも思われる。本講義では、現代の諸問題について国際法がなしていること、それについて検討する。言うまでもなく、受けて良かった!と思える講義にしたい。(なお、本講義は、国際学部のディプロマポリシーたる、グローバルな課題に対する批判的な考察眼の滋養、問題の本質を看取できるような国際教養と研究手法の体得を、国際法学の学びから、目標とするものである。)

各回の授業内容

第 1 回 【授】 オリエンテーション 【前・後】 開講時に指示します。	第 9 回 【授】 国際法で個人を裁く-1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 2 回 【授】 国際法はどのように発展してきたのか?—伝統的国際法の性格 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。事前事後学習要 4 時間 (以下各回共通)。	第 10 回 【授】 国際法で個人を裁く-2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 3 回 【授】 現代国際法はどのような特徴を持っているか?-1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 11 回 【授】 国際社会の司法権?—国際紛争の平和的解決と国際裁判—1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 4 回 【授】 現代国際法はどのような特徴を持っているか?-2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 12 回 【授】 国際社会の司法権?—国際紛争の平和的解決と国際裁判—2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 5 回 【授】 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?-条約と国際慣習法—1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 13 回 【授】 世界の中で日本はどうする?—国際法と日本の立場—1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 6 回 【授】 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?-条約と国際慣習法—2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 14 回 【授】 世界の中で日本はどうする?—国際法と日本の立場—2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 7 回 【授】 人権の国際的な保護の発展—1 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 15 回 【授】 まとめ 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。
第 8 回 【授】 人権の国際的な保護の発展—2 【前・後】 前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に指示したテキストもしくは配付資料の該当箇所を熟読しておくこと。	第 16 回 【授】 試験

成績評価方法

主として試験による成績評価 (試験 90 パーセント、講義内でのコメントペーパーを通じたレスポンス 10 パーセント) また、コメントペーパーによる質疑応答 (試験の講評を含め) を通じたフィードバック

教科書・参考書

開講時に指示

受講に当たっての留意事項

本科目は、ある程度専門性の高い科目です。そのため、「現代ヨーロッパ論」をはじめとする国際学部の専門科目を複数、履修済みの者を受講対象と考えています。その意味で言えば、初学者に対しては受講を勧めません。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング (ディスカッション、グループワーク、発表 等) の実施
×		×

学習到達目標

国際法学のアウトラインの習得が可能となる。

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習